

令和2年度 全県教育課程説明会

# 小学校 体育



神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課  
学校体育指導グループ 津崎 永幸

# 各教科の改訂のポイント (教育課程編成の指針)

## 第9節 体育

### 1 改訂のポイント (1) 改訂の要点

#### 【運動領域】

- 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を重視した目標及び内容の構造の見直し
- 「カリキュラム・マネジメント」及び「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を推進する観点から、系統性を踏まえた指導内容の一層の充実  
(各連の段階のまともを考慮し、各領域で育成することができるような指導内容の充実)
- 運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう、共生の視点を重視した改善  
(体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、共生の視点を重視した改善)
- 内容の一層の明確化（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）に対する目標、内容の改善
- 自己の健康の保持増進や回復等に関する内容の明確化
- 「技能」に関連して、心の健康、けがの防止の内容の改善
- 運動領域との一層の関連を図る内容等の改善

#### (2) 教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として鍛え、生涯にわたって身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

＝「知識及び技能」  
＝「思考力、判断力、表現力等」  
＝「学びに向かう力、人間性等」

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

#### (3) 各学年の目標

|            | 第3学年及び第4学年   | 第5学年及び第6学年  |
|------------|--|---|
| 第1学年及び第2学年 | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。</li> <li>(2) 自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。</li> <li>(3) 各種の運動に進んで取り組み、仲間と協力し、楽しく運動することを目指す。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方及び健康や安全な生活や体の発育・発達について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</li> <li>(2) 自己やグループの運動の課題や身近な健康に関する課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</li> <li>(3) 各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間と協力し、楽しく運動することを目指す。</li> </ol> |

| 第3学年及び第4学年【中学年】  | 第5学年及び第6学年【高学年】  |
|--|--|
| <b>A 体づくり運動</b><br>ア 体ほぐしの運動<br>イ 多様な動きをつくる運動                | <b>A 体づくり運動</b><br>ア 体ほぐしの運動<br>イ 体の動きを高める運動                 |
| <b>B 器械運動</b><br>ア マット運動<br>イ 鉄棒運動<br>ウ 跳び箱運動                | <b>B 器械運動</b><br>ア マット運動<br>イ 鉄棒運動<br>ウ 跳び箱運動                |
| <b>C 陸上運動</b><br>ア 短距離走・リレー<br>イ ハードル走<br>エ 走り幅跳び<br>オ 走り高跳び | <b>C 陸上運動</b><br>ア 短距離走・リレー<br>イ ハードル走<br>エ 走り幅跳び<br>オ 走り高跳び |
| <b>D 水泳運動</b><br>ア クロール<br>イ 平泳ぎ<br>ウ 安全確保につながる運動            | <b>D 水泳運動</b><br>ア クロール<br>イ 平泳ぎ<br>ウ 安全確保につながる運動            |
| <b>E ボール運動</b><br>ア ゴール型<br>イ ネット型<br>ウ ベースボール型              | <b>E ボール運動</b><br>ア ゴール型<br>イ ネット型<br>ウ ベースボール型              |
| <b>F 表現運動</b><br>ア 表現<br>イ フォークダンス                           | <b>F 表現運動</b><br>ア 表現<br>イ フォークダンス                           |

【内容の概要】

領域との関連をきむ)

第4学年【中学年】 第5学年及び第6学年【高学年】

発達

(1) 心の健康  
(2) けがの防止  
(3) 病気の予防

でも、健康診断や学校給食など様々な活動が行われ、自分や他の人では発育・発達などに違いがあることが大切であることについて触れるものとする。

状況、薬物乱用と健康の薬物は、有酸素運動の心拍数も触れるものとする。

ことについて具体的な考えがもてるように指導したりすると伴い、心臓の鼓動や呼吸が「跳ぶ、はねる」などの動きで構成される準備を促す指導に留意する。(「病気の予防」)

現代のみならず大人になつてからの病気の運動領域で学習したことを基に日常的に運動を加えて指導することができる。

その際、体育や保健の見方・考え方の解決のための活動を選んだり工夫を凝らすことにより、健康の大切さを実感し、健康な生活を送ることができるようになる。

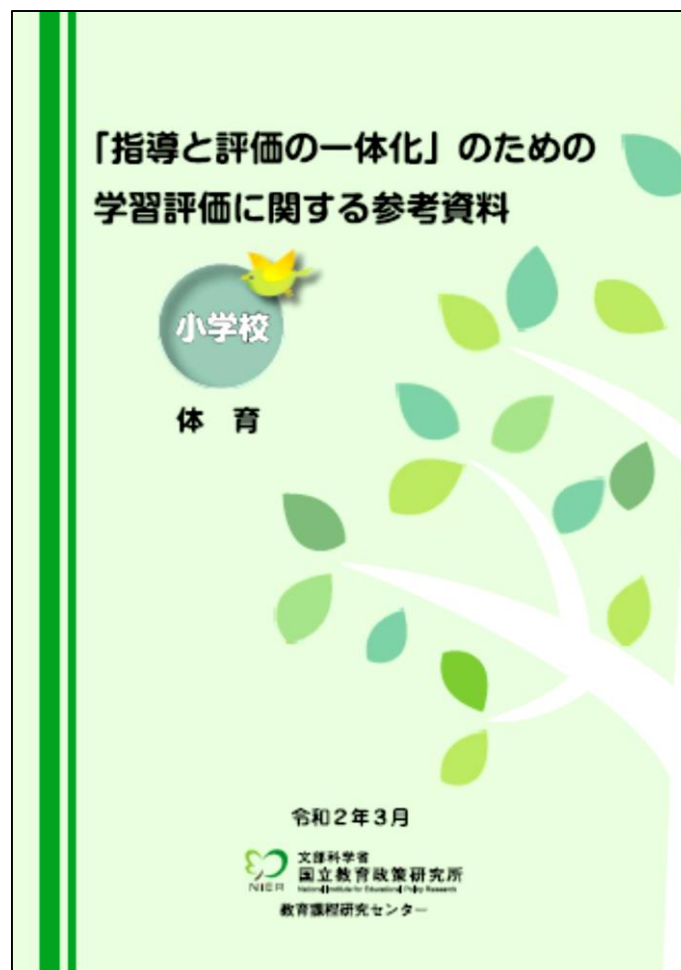
その際、体育や保健の見方・考え方の解決のための活動を選んだり工夫を凝らすことにより、健康の大切さを実感し、健康な生活を送ることができるようになる。

その際、体育や保健の見方・考え方の解決のための活動を選んだり工夫を凝らすことにより、健康の大切さを実感し、健康な生活を送ることができるようになる。

神奈川県教育委員会HPよりダウンロード可能

# 学習評価について

「指導と評価の一体化」の  
ための学習評価に関する  
参考資料



# 小学校体育科の内容のまとめり

第1学年  
及び  
第2学年

A 体づくりの運動遊び

B 器械・器具を使つての運動遊び

C 走・跳の運動遊び

D 水遊び

E ゲーム

F 表現リズム遊び

# 小学校体育科の内容のまとめり

第3学年  
及び  
第4学年

A 体づくり運動

B 器械運動

C 走・跳の運動

D 水泳運動

E ゲーム

F 表現運動

G 保健（1）健康な生活

G 保健（2）体の発育・発達

# 小学校体育科の内容のまとめり

## 第5学年 及び 第6学年

A 体づくり運動

B 器械運動

C 陸上運動

D 水泳運動

E ボール運動

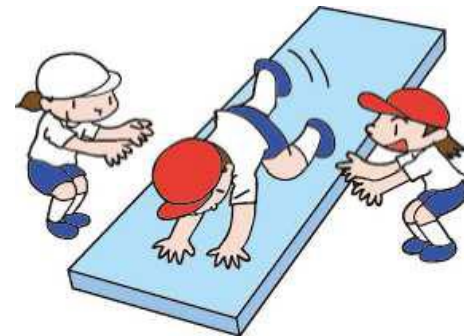
F 表現運動

G 保健（1）心の健康

G 保健（2）けがの防止

G 保健（3）病気の予防

## 事例概要（運動領域）



### 事例 1 「マットを使った運動遊び」（第2学年）

運動領域における指導と評価の計画から評価の総括まで

- 指導と評価のための具体的な手順
- 観点別評価の進め方

# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 【手順1】 単元目標を設定する

- ・ 学習指導要領本文を参考に設定する。
- ・ 単元目標の語尾は、「～することができるようにする」と表記する。



# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 【手順2】単元の目標から評価の視点を整理する

- ・ 児童の実態等を考慮しつつ、本文をもとに作成する。
- ・ 評価規準の語尾

「～できる」 (技能)

「～している」 (知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」)

「～しようとしている」 (主体的に学習の取り組む態度の「健康・安全」以外)

と表記する。

# ● 指導と評価のための具体的な手順

## ◎ 単元の目標から評価の視点を整理する

(マットを使った運動遊びに関する部分を抜粋)

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|--|--|
| マットを使った運動遊びの行い方について <b>知っている</b> とともに、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転の動きを身に <b>付けている</b> 。 | 器械・器具を用いた簡単な遊び方を <b>工夫している</b> とともに、考えたことを友達に <b>伝えている</b> 。 | 器械・器具を使つての運動遊びの楽しさに触れることができるよう、運動遊びに進んで <b>取り組もうとしていたり</b> 、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動を <b>しようとしていたり</b> 、場や器械・器具の安全に <b>気を付けている</b> 。 |

・ 本文をもとに上記のように作成し、さらに具体化する

# ● 指導と評価のための具体的な手順

| 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マットを使った運動遊びの行い方を知っている。</li> <li>・ マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マットを使った簡単な遊び方を選んでいる。</li> <li>・ 友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。</li> <li>・ 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動しようとしている。</li> <li>・ 場の安全に気を付けている。</li> </ul> |

- ・ 「**知識・技能**」については、知識の評価規準と技能の評価規準に**分けて設定**する。
- ・ 「**思考・判断・表現**」については、「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に**分けて設定**する。
- ・ 「**主体的に学習に取り組む態度**」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の**各項目に分けて設定**する。

# ● 観点別評価の進め方

## (1) 指導と評価の重点化

時間ごとに重点的に指導する内容を絞る

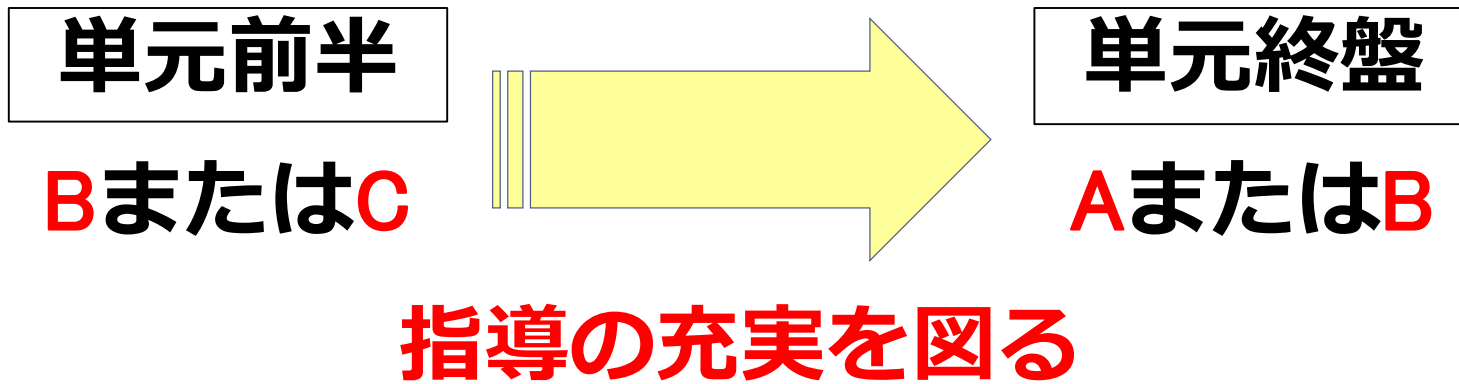
### 《留意点》

技能や主体的態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられる。

**重点内容と本時の評価の観点が必ずしも一致するものではない。**

# ● 観点別評価の進め方

## (2) 評価後の指導の継続と再評価の重要性



単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要である。

## ● 観点別評価の進め方

### (3) 指導と評価の計画の柔軟な運用

評価のための指導にならないようにすることは言うまでもないが…

**育成を目指す児童の姿を評価項目の視点から想起し、児童の実態等に応じて、適宜修正を加えながら柔軟に作成することが大切である。**

## 事例概要（保健領域）



### 事例 6 「体の発育・発達」（第4学年）

保健領域における指導と評価の計画から評価の総括まで

- 指導と評価のための具体的な手順
- 観点別評価の進め方

# ●指導と評価のための具体的な手順

## 1. 単元の目標

(1) 年齢に伴う体の変化と個人差、思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することが**できるようにする。**

【知識】

(2) 体の発育・発達について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現することが**できるようにする。**

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 体の発育・発達について、健康の大切さに気づき、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことが**できるようにする。**

【学びに向かう力、人間性等】



# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 2. 単元の評価規準

### 知識

- ① 身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことを言ったり書いたり**している。**
- ② 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男女の特徴が現れることについて、理解したことを言ったり書いたり**している。**
- ③ 思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、異性への関心も芽生えること、これらは個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることについて、理解したことを言ったり書いたり**している。**
- ④ 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたり**している。**

# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 2. 単元の評価規準

### 思考・判断・表現

- ① 体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。
- ② 体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えたとともに、考えたことを学習カードなどに書いたり、発表したりして友達に伝えている。

# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 2. 単元の評価規準

### 主体的に学習に取り組む態度

- ① 体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで**取り組もう**としている。

# ● 観点別評価の進め方

## (1) 児童の学習改善につなげる評価

保健の学習の評価活動は、大きく分けると、以下の三つの局面が考えられる。

- ① 児童が、**保健に関する知識や関心をどの程度もっているのかを見取る**とともに、児童の発達の段階や態度、発言、行動などから、学習内容の重点等を鑑み、授業の計画を立てる局面。

## ● 観点別評価の進め方

②単元の保健の**学習の中で、児童がどの  
ように変容しつつあるのかを見取り、  
次なる課題を提示したり、指導の在り  
方の修正を考えたりする局面。**

**(形成的評価)**

## ● 観点別評価の進め方

③保健の学習が**目標に対してどの程度まで達成できたのか**を、児童の学習状況から見取る局面。

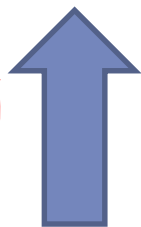
**(総括的評価)**

# ● 観点別評価の進め方

## (2) 指導と評価の一体化

**「十分満足できる」** 状況

質的な高まり



児童の姿は多様に想定される

**「おおむね満足できる」** 状況については、児童の学習する姿をある程度想定し、具体的に示すことが必要



達していない

**「努力を要する」** 状況

## ● 観点別評価の進め方

「努力を要する」状況



追ってその状況を観察していく

指導や支援を工夫することが必要

例

- ・ 新たな発問を加える
- ・ 具体例で考えさせる
- ・ 一例を挙げさせてみる
- ・ 友達と意見を交流させてみる

それぞれの場面に応じた工夫が求められる



# ● 観点別評価の進め方

## (3) 基本的な考え方

# 評価

資料の収集・分析に多大な時間を…



## 効果的・効率的な学習評価へ

- ・ 3 観点の評価を重点化
- ・ 1 時間に多くても 2 観点
- ・ 全員の記録を残す場合は精選
- ・ 「主体的に…」は最後の時間に総括として

# 「知識・技能」の評価

について



## 事例2 「高跳び」（第4学年）

### 「知識・技能」の評価



学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

何を理解しているか  
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

思考力、判断力、表現力等

## 知識・技能の評価の考え方・進め方

児童が運動の楽しさや喜びを味わう

- 観察
- 学習カード
- ICT機器 など

目指すことは…

- ・ 運動の行い方についての知識を習得
- ・ 動きを身に付ける

## 知識・技能の評価の考え方・進め方

### 児童が運動の楽しさや喜びを味わう

低学年段階では、課題となる動きが身に付いている児童は、その運動の行い方、特に動きのこつやポイントを理解しているものとして見取ることができる。

目指すことは…

- ・ 運動の行い方についての知識を習得
- ・ 動きを身に付ける

## 知識・技能の評価の考え方・進め方

### 児童が運動の楽しさや喜びを味わう

低学年段階では、課題となる動きが身に付いている児童は、その運動の行い方、特に動きのこつやポイントを理解しているものとして見取ることができる。

低学年の「知識・技能」の評価規準の語尾（例）

「～遊びの行い方について、言ったり**実際に動いたりしている。**」

## ● 単元の目標（知識・技能）

高跳びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けることができるようにする。

## ● 単元の評価規準（知識・技能）

- ① 高跳びの行い方について、言ったり書いたりしている。
- ② 踏切り足を決めて跳ぶことができる。
- ③ 3～5歩の助走から強く踏み切って上方に高く跳ぶことができる。
- ④ 膝を柔らかく曲げ、足から着地することができる。

## ● 単元の目標（知識・技能）

運動領域の「知識・技能」は、「知識」と「技能」の評価規準を分けて設定します

## ● 単元の評価規準（知識・技能）

- ① 高跳びの行い方について、言ったり書いたりしている。
- ② 踏切り足を決めて跳ぶことができる。
- ③ 3～5歩の助走から強く踏み切って上方に高く跳ぶことができる。
- ④ 膝を柔らかく曲げ、足から着地することができる。



## 習得を目指す知識や技能

★どうなれば達成なのか分かりやすい場づくり

★オノマトペや音（リズム）など → 明確化

分かりやすくなるような指導の工夫

結果として…

# 児童

見合い・教え合いを促進

# 教師

結果として…

明確な学習状況の見取り

# 指導の工夫と評価の方法（具体例）

## 知識・技能 規準④

「膝を柔らかく曲げ、  
足から着地すること  
ができる。」



- 足からマットの上に着地できているか
- 体のバランスを保ちながら着地できているか

※安全の確保に留意することは必須

## 知識・技能 規準②

「踏切り足を決めて跳ぶことができる。」



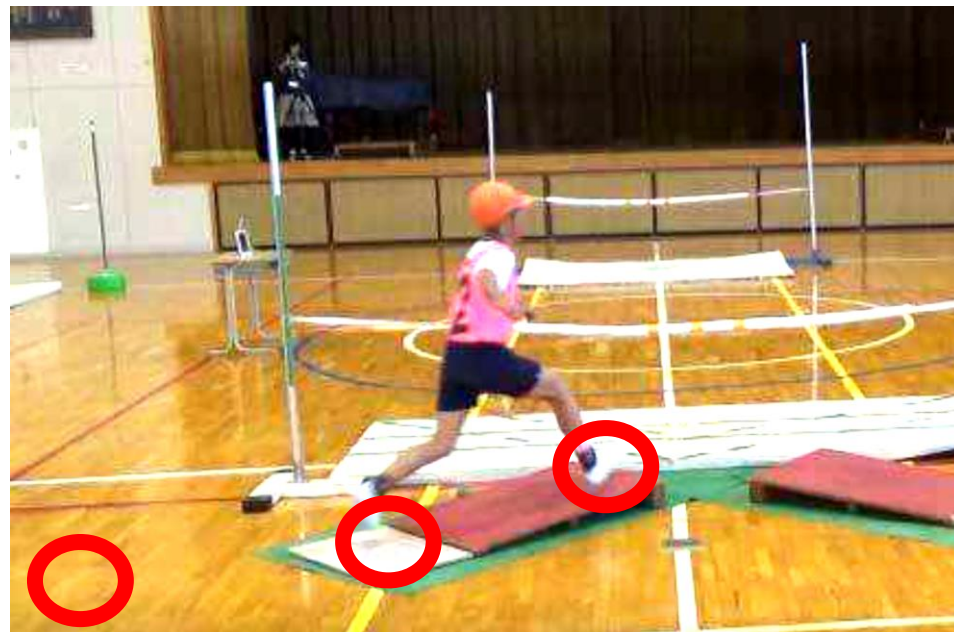
### ● 踏切り足にゴムバンドを付ける

→児童自身も見ている教師も友だちも、  
どちらが踏切り足か分かりやすくなる。

# 指導の工夫と評価の方法（具体例）

## 知識・技能 規準③

「3～5歩の助走から強く踏み切って上方に高く跳ぶことができる。」



レッ                      ツ                      ゴー！

- 踏切り位置に、輪や踏切り板を置く
- 3歩の助走を口伴奏を用いて跳ぶ  
→課題の可視化や音の合図でポイントを明確に！

# 指導の工夫と評価の方法（具体例）

## 知識・技能 規準③

「3～5歩の助走から強く踏み切って上方に高く跳ぶことができる。」



### ● ICT機器を用いて動きを確認する

→児童相互の見合い教え合いを促進  
運動の行い方の理解を促す

→教師の学習状況の見取りについての情報



# 指導の工夫と評価の方法（具体例）

## 知識・技能 規準①

「高跳びの行い方について、言ったり書いたりしている。」

- 活動中の観察（見合い・教え合い）
- 学習カード（行い方・こつ・ポイント）

今日のめあて 自分の新記録にちょうせんしよう！  
【第8時】

どんなことに気をつけて、記録会にちょうせんしたか、書こう！

とぶときに足をのほすこと、3歩助走、ツ・ゴーをはやくとぶことをいしきしてできました。ふみ切りを強くできました。

「レッツ・ツ・ゴー！高とび」の学習を終えて

私は高とびの学習で学んだことは、ツ・ゴーを速く、3歩助走、足をのほすこと、ひざをまげて着地することなどを学びました。そのことを高とびの学習でいしきして、やることばて"きました。高とびの学習で、おもしろいことが"る"ことが"て"きました。

今時学習はよかったです。友だちから教わることが、か"ました。か"ました。

高とびのポイントも、か"りました。思いど"ることができ、か"りました。高とびのポイントを、か"りました。

## 事例7 「心の健康」（第5学年）

### 「知識・技能」の評価



学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

何を理解しているか  
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

思考力、判断力、表現力等

## ●単元の目標（知識・技能）

心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処について、理解することができるようにするとともに、不安や悩みへの対処についての技能を身に付けることができるようにする。



# 単元の目標と単元の評価規準

## ● 単元の評価規準（知識・技能）

- ①心は、様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することについて、理解したことを言ったり書いたり**している。**
- ②心と体は、深く影響し合っていることについて、理解したことを言ったり書いたり**している。**
- ③不安や悩みへの対処には、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて、理解したことを言ったり書いたり**している。**
- ④不安や悩みの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などについて、理解したことを**言ったり書いたりしている**とともに、それらの対処が**できる。**

# 単元の目標と単元の評価規準

## ● 単元の評価規準（知識・技能）

- ①心は、様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。

保健領域の「知識・技能」は、「知識」と「技能」を一体とするための評価規準を設定します

言ったり書いたりしている。

- ④不安や悩みの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などについて、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、それらの対処ができる。

# 保健領域の「技能」

「心の健康」 → 呼吸法

「けがの防止」 → 手当

# 学習カードの工夫例

## ○「やってみよう」自己評価

できる Y → N 今一步

気持ちを楽にしたり、気分を変えたりする方法

| 深呼吸                     | 1回目 |   | 2回目 |   | ストレッチ                      | 1回目 |   | 2回目 |   |
|-------------------------|-----|---|-----|---|----------------------------|-----|---|-----|---|
|                         | Y   | N | Y   | N |                            | Y   | N | Y   | N |
| お腹にたまるように鼻で深く息を吸うことができる | Y   | N | Y   | N | 気持ちいいところまで筋肉を伸ばすことができる     | Y   | N | Y   | N |
| 口から細くゆっくり息を出すことができる     | Y   | N | Y   | N | 筋肉を緩めることで、筋肉の伸縮を意識することができる | Y   | N | Y   | N |

評価1場面で活用した自己評価カード (例)

○不安や悩みの対処の仕方について、次の言葉を使って、本時の学習で分かったことを書いてみよう。【深呼吸・ストレッチ】

不安や悩みがあるときは、 \_\_\_\_\_

書き出しを限定する

キーワードを提示

評価2場面で活用した学習カード (例)

技能  
部分

一体として  
指導・評価

知識  
部分

# 学習カード 「十分満足できる」例

## 評価② 「十分満足できる」状況と判断する児童の具体的な姿の例

不安や悩みがあるときは、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするために、深呼吸やストレッチを使うといいことが分かった。自分は、最近勉強しているとイライラして長続きしないので、ストレッチを活用してみたいと思う。また、切羽詰まった時など、時には深呼吸のようなものも重要だと思った。

**具体例を挙げて記入している**

不安、気持ちを楽にしたり、気分を変えたり、簡単に対処ができることが分かった。深呼吸は、胸だけで呼吸していたので始めはできなかったけれど、だんだんやっていくうちにやり方が分かってできるようになった。ストレッチも筋肉の伸縮を意識してやるといいことが分かった。

## 保健領域 技能

## 健康な生活における 基礎的・基本的な技能

実習を通して理解したことができ  
ているかを評価する

- ➡ 知識と技能を一体とするための評価  
規準を設ける必要がある
- ➡ 知識及び技能を一体化するための授業展開
- ➡ 評価に役立つ学習カード等を工夫する

## 保健領域 知識・技能

領域の特性から  
ほぼ毎時間評価の対象となる

より妥当な評価を行うために…

- ➡ 単元を通して授業中と授業後で評価する内容を考える
- ➡ 観察、学習カード、ペーパーテスト等多様な評価方法を組み合わせる

評価計画を工夫する必要がある